

I 調査研究報告

池上曾根遺跡の 大型掘立柱建物の 年輪年代

大阪府和泉市と泉大津市にかけて所在する池上曾根遺跡は、わが国でも有数の弥生時代の環濠集落である。1976年には遺跡の中心部約11万㎡が国史跡に指定された。1990年からは、「史跡池上曾根遺跡整備委員会」が設置され、史跡整備にむけての発掘調査がはじまった。一連の調査のなかでもとくに注目されたのは、1995年に遺跡中心部において検出された弥生時代中期後半の大型掘立柱建物と、この建物中央部南側にある大型削り抜き井戸の発見であった。

大型掘立柱建物の柱根 大型掘立柱建物は、桁行10間(約19.2m)、梁間1間(約6.9m)、床面積約132㎡の東西棟で、これに独立した棟持柱が東西両妻側に1本ずつ、また屋内棟持柱が2本たつ構造のもので、弥生時代中期後半のものとしては最大級の規模を誇る。総数26基の柱穴には、直径60～70cmの柱根が総数17本遺存していた。材

種はヒノキ材が15本、ケヤキ材が2本であった。これらのなかから、遺存状態の良いヒノキの柱根を5本選定し、年代測定をおこなった。5本のうち1本は北柱列から(柱番号4)、他の4本は南柱列からのものである(柱番号12、16、17、20)。これらのなかで柱12と柱20には辺材部が残存していた。とくに柱12の柱根には、辺材部が完存しており、Aタイプのもつと判断した。残る3本はCタイプのもつであった。

柱12の伐採年は紀元前52年と確定 5本の年代測定の結果は、表1に示したとおりである。得られた結果のなかでもっとも重要な年輪年代は、柱12の年代値である。これは、樹皮を剥いだだけの形状のものであるから、柱12の年輪年代は伐採年代を示している。つまり、柱12は紀元前52年に伐採されたものであることが確定した。ここで、柱12についてみると、伐採時に穿ったと思われる筏穴が完存していることや、下部底面を新たに切断したような痕跡もないことなどから推して、転用や再利用材とは考えにくい柱材と思われる。また、この柱材が伐採後、すぐ使われることなく、長年にわたって放置されていたとは考えにくい。これらの点を考慮すると、大型掘立柱建物の創建年代は紀元前52年を上限にして、その直後が考えられる。さらに、辺材部を有する柱20の年輪年代は紀元前56年で、柱12にきわめて近い年代値が得られており、失われたであろう若干の年輪層数を推算すると、これまた柱12と同様の伐採年代が想定できる。

柱12の伐採年代確定の意義 弥生時代を例にとると、遺跡、遺構の年代決定は、おもに土器の様式編年によっている。近畿では、唐古遺跡出土の土器を基準に5様式に分類、弥生時代前期を第I様式、中期を第II・III・IV様式、後期を第V様式とする時期区分を設定している。これに従うと、上記の大型掘立柱建物の柱穴の掘形埋土内出土の土器は弥生時代中期後半のもので、多くの研究者は実年代で西暦1世紀後半頃と推定していた。ところが、

表1 柱根5本の年代測定結果一覧表

柱No	柱列	材・種	年輪数	年代	形状
4	北	ヒノキ	184	93B.C.	C
12	南	ヒノキ	248	52B.C.	A
16	南	ヒノキ	358	113B.C.	C
17	南	ヒノキ	253	113B.C.	C
20	南	ヒノキ	252	56B.C.	B

大型掘立柱建物の平面図及び柱穴断面図 1:300
(和泉市教育委員会提供)

→大型掘立柱建物を描いたと思われる土器絵画
(池上曾根遺跡出土)

柱12の伐採年代はこれよりも約100年古く遡った年代が得られた。この建物がほぼこの頃に建てられたとすると、近畿における弥生土器編年の1点に実年代が与えられたことになる。このことは、これまで北部九州が近畿より先行していたとされる時代関係の見直しや弥生前期、後期、古墳時代のはじまりなどの見直し論にも一石を投じたことになる。さらに、柱12の伐採年代が確定したことにより、この頃の日本の文化と世界の古代文化を共通の時間軸で比較することが可能になってきた。たとえば、エジプトに目をむけてみると、クレオパトラが女王の座についたのが紀元前51年であるから、大型掘立柱建物はまさにこの頃のもののなのである。

大型掘立柱建物の柱根12（写真）とその年輪パターングラフ
(黒：標準パターングラフ、赤：柱根12)

他の事例 滋賀県守山市にある二ノ畦・横枕遺跡は弥生時代の環濠集落である。発掘の結果、ヒノキやスギを使った井桁式の井戸2基（A、B）が発見された。そして、井戸Aは紀元前97年、井戸Bは紀元前60年にそれぞれ伐採した材であることが判明した。井戸内の埋土や木枠内の裏込め土からは、第IV様式後半の土器が出土しているという。弥生時代中期後半の年代が約100年遡る可能性が高くなった。（光谷拓実／埋蔵文化財センター）